

## 熊谷 崇氏に聞く(その6) (歯界展望 Vol.104 no.2 2004年)

■2004年に入って、たいへん立派な診療所が完成しました。

患者さんのニーズに合わせて、チェア17台まで拡大しました。保険診療でマイハイジニストを付けてまで患者さんの口腔の健康を守りたいと、そんな夢を抱いて私はここまでやってきて、患者さんこの気持ちに添えて定期的に通つてくれるわけですよね。それなのに、チェアが足りないからメインテナンスは受けられませんなんて言ったら、私がいまままで患者さんに言ってきたことに対して、申し訳が立たない。そこで、患者さんが増えたら、歯科衛生士を教育し、できるようにしたらチェアをもたせて、メインテナンスをさせて、と続けていたら次第にチェアが増えて、最初の4台が17台になりました。酒田のような経済基盤の弱い地域で、本当にきちんと口腔の健康を守ろうとすると、ここまでやらざるをえなかったのです。また、働く側も、やはり最先端の技術と知識をもち、自分のチェアを

もち、できるだけ職場に来るのが楽しいというような雰囲気づくりも大事だと考えて、私が得てきたものは、すべてこの診療所に投入しました。そのかわり自宅への投資はほとんどしていません。一日のうちで大半を過ごすのは診療所のほうですから、そちらを立派にするように全力投球してますね。

■Oral Physicianの育成だけでなく、新診療所も建設されるなど、還暦を過ぎてなお新たな挑戦を続けておられますね。

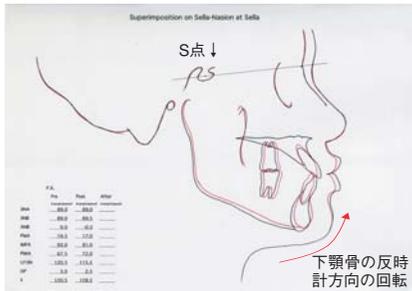
卒業して自費診療だけを約10年やって、その後酒田で約25年くらい診療して、日本ヘルスケア歯科研究会を設立して……いろいろなことをやってきて、気がついたらもう60歳。あと歯科医をやっても10年じゃないですか。歯科医として最後の10年を、どうやって結実させるかということは、私にとっては大きなテーマなのです。そのための取り組みが「Oral Physician 育成セミナー」[SAT with ISO9001]であり、この診療所であると云えますね。(完)

## ドキュメンタリー・矯正治療

今号は、矯正治療開始前の資料とリムーブ後の資料の比較についてご説明します。詳細はホームページをご覧ください。

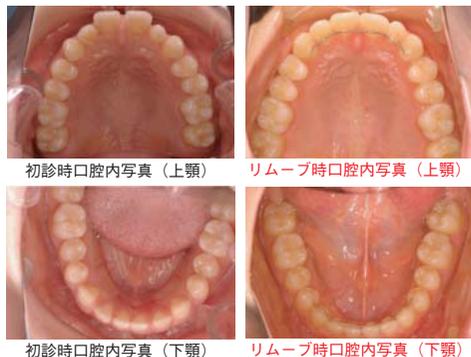
## 「矯正治療前後の比較と分析」

初診時に比較して上下顎前歯が後退し口唇の突出感が改善した事が分かります。トレースの重ね合わせを見ると、下顎骨は反時計方向に回転したためオトガイ部(下顎の最前方部)硬組織は僅かに突出する傾向を認めましたが、軟組織の厚みが減少(体重減少による皮下脂肪等の減少)によりオトガイ部軟組織の変化は認められませんでした。



↑初診時(側面)とリムーブ時セファロをS点(頭蓋骨下垂体窩の中心)で重ね合わせたトレース図  
黒いラインが初診時、赤いラインがリムーブ時

口腔内写真では、歯列全体のスペースが閉鎖された事がよく分かります。上顎、下顎の口腔内写真から歯の捻じれ(特に上顎犬歯)が改善されて歯列弓の連続性が保たれ左右対称のアーチ型に変化した事が分かります。また、スペースの閉鎖により、上下顎歯列弓の前後の長さ短くなり唇側傾斜していた上下顎前歯がコントロールされた事が分かります。



初診時口腔内写真(上顎) リムーブ時口腔内写真(上顎)  
初診時口腔内写真(下顎) リムーブ時口腔内写真(下顎)

〈初診時の目標〉  
動的治療期間：18〜25カ月  
治療目標1：上下歯列のすき間を閉じ、矯正治療後も安定する噛み合わせにする。  
治療目標2：上下前歯の後退により、口唇の突出感を改善する(但し、口唇周囲の軟組織が余っている感じがあるため前歯の後退による口唇の突出感の改善は軽度であるかもしれません)

今回の症例では動的治療(矯正装置装着)期間が27カ月かかってしまった事が反省すべき点です。治療期間が長くかかってしまった理由は、治療期間中に上下顎骨の位置関係が安定するための時間が予想より長くかかってしまった事、咬合力が強く歯の移動に時間が予想より長くかかってしまった事、担当医と患者である歯科衛生士が実際の診療(ひるま矯正歯科での診療で忙しく治療が効率良く進まなかった事が挙げられる)と思えます。

治療目標である「すき間(空隙)」を閉鎖し「口唇の突出感を改善する」と言う目標はほぼ達成できたのではないかと考えています。予想外の変化は、やや小さい側切歯でも比較的安定した咬合を得られた事、下顎骨が反時計方向に回転してしまつたが側貌にはあまり影響がなかった事、上下顎前歯後退による口唇後退の反応が予想より良かった事が挙げられます。

今後は、リムーブ時の検査で確認された歯肉からの出血(初期の歯肉炎)をPMTTCや歯石除去によるメインテナンスで管理し、リテーナーの点検を行いながら咬合状態がより安定する様に維持します。

## 側貌の比較

一般的な学会や研究会での症例発表の流れに準じて治療開始前(初診時)を黒字、リムーブ時を赤字で表示します。



## 口腔内写真の比較



初診時口腔内写真(正面)

リムーブ時口腔内写真(正面)

初診時口腔内写真(右)

リムーブ時口腔内写真(右)

初診時口腔内写真(左)

リムーブ時口腔内写真(左)